



愛 高め 合い、磨き 合い、感動 し 合う学校をめざして

## 長い2学期終了～多くの学びは校内や校外で～

9月運動会。10月ひがし野祭。12月駅伝フェスティバルと三大行事を実施することができました。生徒たちにとって行事を終えるごとに、学級の絆を深めることができ思い出に残るものとなりました。どの行事を振り返っても感動と感謝の気持ちでいっぱいです。10月の修学旅行は、古今の歴史を隣接県で学びました。今後の人生と重ねて考えることとなった貴重な体験となりました。

また、読書の時間のボランティアによる読み聞かせは、穏やかな気持ちで一日が始まるきっかけとなっています。12月18日は3年生社会科特別講座「ハンセン病から人権を学ぶ」と題し、校長先生から講話をいただき、いろいろ感じ考えるきっかけとなりました。大切なことはメモを取りながら真剣に学んでいました。

《まとめから抜粋》

### 【社会科特別講座を受講して、感じたことや考えたこと】

- ・差別された側の気持ちになってほしいなと思った。
- ・自分だけでなく、家族に迷惑をかけてしまったことが一番辛かっただろうと思った。
- ・生まれた場所だけで差別が起こってしまうのはすごく悲しい。
- ・差別をすることは言うまでもなくだめなこと。それを分かっているでも感染してしまうと命に関わる大きなことだとしたら、自分は本当に正しい行動が取れるのか、間違っていることを反対できるか、正直分からなくなった。
- ・病気を持っているからと不当な差別を受けて、人間としての幸せを奪われるのは絶対あってはいけないと思った。もしも身近に病気やそれに対する悩みなどを抱えている人がいたら力になりたい。
- ・「差別のない世界」という言葉を一人ひとりが意識してほしいと思った。
- ・同和問題についても考えると悲しくなった。
- ・過去にあっただめなことは、現在や未来にあってはだめなこと。全ての人権が守られ、安心して暮らせる時が来てほしい。しなければならない。責任がある。
- ・差別を受けた人はそれだけでも辛いことなのに、加えて身の回り人にまで影響を及ぼすことがあるので、想像している以上の辛さや苦しみがある。
- ・校長先生のお話を聞いて、分からない、教養（知識）がないことが本当の意味で怖いと感じた。また知識があっても周りに流されてしまうことが多いことも分かった。
- ・正しい情報を知らない、差別は必然的に起こりやすくなると思った。

### 【これから生かしたいこと】

- ・日本人として、コロナウイルスでのせいでいじめを受けてしまったり、その地域に住みにくくなってしまっている人たちがいるというのを恥じてしまう。
- ・たとえ自分と違うところがあっても、それを判断・差別するのではなく、認めて受け入れられるようにしたい。
- ・間違った情報に流されず、正しい情報を見極める力をつけたい。
- ・人を大切に思う気持ちを周りの人だけでなく全員に対してもてるようにしたい。
- ・見た目だけで判断することは本当に良くないことだと思った。自分も見た目で「あの人～」とか考えてしまうことがあるのでやめたい。
- ・改めて差別のことを考え直した。
- ・今、差別をせずに日常を過ごしているけれど、これからも差別をしないように3つの力を生かして生きたいと思った。

「3つの力」を身につけよう

**違いを認められる力  
真実を見極める力  
人をいとおしむ力**

校長先生のお話から

- ・校長先生がおっしゃった3つの力を、完璧にできるようにします。特に、「真実を見極める力」を伸ばしていこうと思います。いくら批判的に強く自分の意見があったとしても、知識がなければ今回のハンセン病のように同じようなことが起こってしまうので、正しい情報を取り込み自分の意見を持っていきたい。
- ・ハンセン病に限定せず、何か障害を抱えている人や苦しんでいる人がいたら、手を差し伸べたいと思う。校長先生がおっしゃっていたように、一人ひとりの違いを認め合いたいと思った。
- ・一人ひとりが違って、それぞれの個性があると思う。これからの学校生活や社会生活でも、一人ひとりを尊重し毎日の生活を送れることに感謝して、生きていきたいと思った。感謝の心を毎日持って生活したい。
- ・何の力が足りなくて、何をすれば補えるのかを理解して実行する。
- ・ハンセン病の差別だけでなく、性別や障害や人種など様々な差別があり、人権が侵害されている。それにより傷つく人がたくさんいるので、自分自身も他人事ではなく差別について考え行動して行きたい。
- ・人権は学校生活に結びついていて、いじめや暴力、SNS で簡単に人権が侵害されてしまうので、身近にある問題として捉えてクラスや学年でも呼びかけたい。
- ・少しでも障害をもっている人たちにとって生きやすい環境を創りたいと思い、平等に共存していくことだと思った。
- ・不当な差別によって悲しむ人を減らすために、自分やその周りの人だけでなく、これからの日本を担う世代の人たちの差別意識を根本から無くさなければならぬことを感じた。
- ・最近ではコロナウイルスによる差別が目に見える形で明るみに出ている。実際ハンセン病もコロナも感染症であり、人がそれを怖がってしまうのは必然的であると思う。しかし、感染した人や疑わしかった人が治った後でも治っていなくても、その人や関わっている人に寄り添ってあげることが大切であると思った。可哀想だと思ってしまふけれど、可哀想の先の行動をしてあげられる人になりたい。
- ・コロナの差別が起きてしまっていることは、過去に起きたことと何も変わっていない。絶対あってはいけない。差別がなくなってほしい。なくしたい。なくさなければいけないと思った。そのために、自分にできることをコツコツやろうと思った。

自己を見つめた生徒たちの行動に期待したいと思います。

## 合格を願う (学年スタッフ一同)

受験する生徒のみなさんへ



## お知らせ

今年度の修学旅行は、GoTo トラベルの割引や、京都手配のキャンセル料の支払いが発生し、決算報告が遅れてしまい、大変申し訳ありません。

12月中旬に真岡市がキャンセル料を補助してくれることが決定しましたので、1月には決算報告を配布し、残金を2月に旅行会社から保護者の皆様に送金できる予定となりましたことを、ご報告いたします。

年末年始は安全安心にお過ごしください。